



**挿絵画家。**宇和島城下(現、宇和島市)出身。京都市美術工芸学校(現、京都市立芸術大学)日本画科を経て上京し、日本画を学びながら図案や広告の仕事に携わるようになった。明治44(1911)年、津村順天堂の「中将湯」(薬)の、モダンな婦人の広告画が注目を浴びて一躍有名になり、『少女画報』や『少年倶楽部』などの少年少女向け雑誌や、『婦人世界』などの婦人雑誌に挿絵として描いた、独特な雰囲気を持つ美少年・美少女の絵や美人画は、絶大な人気を博した。

大正から昭和初期にかけて、華宵の描くシャープなペン画による、透明感と妖艶さを合わせ持った美少年、美少女は一世を風靡し、また、華宵が、当時最先端の流行を取り入れてデザインをした浴衣や洋服は、「華宵好み」として雑誌に掲載されるなど、大正ロマン期を代表する人物の一人となった。

晩年は不遇であったが、後に弥生美術館を創設する鹿野塚見が力を尽くして回顧展が開催され、再び脚光を浴びるようになった。昭和41(1966)年、逝去後に挿絵画家としては初めて叙勲(勲五等双光旭日章)を受けた。

## 略歴

- |                  |   |
|------------------|---|
| 明治21(1888)年4月6日  | 宇和島城下の裡町に生まれる。  |
| 明治35(1902)年3月    | 上阪。花鳥画家・平井直水に入門   |
| 明治36(1903)年4月    | 京都市美術工芸学校日本画科へ入学  |
| 明治39(1906)年12月   | 東京へ出る。  |
| 明治43(1910)年      | 雅号を「華宵」とする。   |
| 明治44(1911)年      | 津村順天堂の「中将湯」の広告を描く。  |
| 大正2(1913)年3月     | 『講談倶楽部』(講談社)3月号の挿絵を描き挿絵画家としてデビュー。                           |
| 大正13(1924)年      | 画料問題のこじれから、これ以後講談社の仕事を手放す。                                  |
| 大正15(1926)年      | 村田社、日出づる国社から「華宵便箋」が発売され大評判となる。その後、五藤社、ベニバラ社などから次々と「華宵便箋」が発売 |
| 昭和10(1935)年      | 代表作「移り行く姿」(六曲一双屏風)完成  |
| 昭和32(1957)年      | 長年の挿絵発展への貢献をたたえ、出版美術家連盟より表彰される。                             |
| 昭和34(1959)年11月   | 米進駐軍有志らの招きにより、ハワイに渡る。昭和36年に帰国                               |
| 昭和41(1966)年7月31日 | 78歳で永眠。挿絵画家としては初めての叙勲(勲五等双光旭日章)                             |

(写真提供：高島華宵大正ロマン館)

### 〈関連図書〉

- ・『高島華宵名作画集』 講談社 1967年
- ・高島華宵『画家の肖像・高島華宵の伝記と作品』 講談社 1971年
- ・『高島華宵名画大集』 講談社 1976年
- ・『高島華宵名画集-優美・華麗な叙情画の世界-』 講談社 1984年
- ・『別冊太陽高島華宵-美少年・美少女幻影-』 平凡社 1985年
- ・近藤富枝『移り行く姿』 彩樹社 1993年
- ・高橋光子『華宵とその兄』 潮出版社 1993年
- ・高島麻子『華宵からの手紙』 愛媛県文化振興財団 1997年
- ・コロナ・ブックス編集部『高島華宵 美少女図鑑』 平凡社 2001年

### 〈関連施設〉…高島華宵大正ロマン館

〒791-0222 愛媛県東温市下林丙654-1 TEL: 089-964-7077

宇和島市立歴史資料館

〒798-0003 愛媛県宇和島市住吉町2丁目4-36 TEL: 0895-23-2400